

(別添 3)

【天理市】
校務 DX 計画

1. 本市での取り組みについて

現在、保護者に対するお便り・配付物等については、クラウドサービスを利用した通知を一定数行っている。今後も各家庭の事情を考慮した上で、有用な活用方法について検討を進めていく。

2. 本市における課題について

【クラウドサービス】

保護者から学校への提出物については、クラウドサービスの利用は依然として進んでいない。現状の校務では、FAXや押印を伴う紙媒体での情報伝達が多く残っているためである。これらの慣習は情報共有の遅延や事務処理の非効率性を招き、教職員の大きな負担となっている。

また、ネットワーク回線が複線化しているため、データ移行に手間がかかることや作業場所が限定されることなどが原因となり、作業効率が低下している。

【校務支援システム】

校務支援システムに名簿情報等を手入力する作業は、教員の業務負担が増大するだけでなく、入力漏れや誤字・脱字が起こりやすく、照合作業や訂正作業が発生することで二次的な手間が増える一因となっている。

3. 今後の取り組みについて

【クラウドサービス】

提出物のオンライン化や作成方法の簡略化のためFAXや押印を原則廃止することは、根強く残る紙主体の情報伝達からの脱却につながる。保護者と学校双方の負担を軽減し、「生徒を介さず保護者と学校が直接情報を伝達可能」なクラウドサービス利用の拡大を目指す。

今後活用を進めることで、情報伝達ミスの防止、資料作成の負担軽減による業務効率化、そしてペーパーレス化が可能となる。

また、ゼロトラストネットワーク環境に移行することで、データ移行の手間が削減され、校務が職員室でしか出来ない等の不便が改善され作業効率を向上させることを目指す。

【校務支援システム】

教職員が本来の業務に注力できるよう、不要な手入力作業の一掃に向けてシステム間の自動データ連携や一括取込等の必要性を検討することで、次世代のクラウドベースな校務支援システムへの円滑な移行を図り、学校現場のDX化を目指す。